

## 土器コミュニティセンター 市長と語る会

日 時：令和 5 年 11 月 1 日（水） 午前 10 時 00 分～11 時 40 分

場 所：土器コミュニティセンター

参加者：13 名

担当者：市長、地域担当職員 満尾（危機管理課）・駒松（子育て支援課）、藤田（会計課）、  
塩田（広聴広報課）、西岡（広聴広報課）

### 1. あいさつ

#### 市長

土器コミュニティの皆様方にはお世話になっており、いろいろとご理解とご指導をいただき、ありがとうございます。本日は市長の語る会のために、いろいろご調整をいただき、またこのようにたくさんの方がお集まりいただき感謝申し上げます。

ここ約 3 年間、コロナウイルス感染症のため活動制限があったが、そのような中で土器コミュニティの皆様方には地域の活動を絶やすことなく様々な工夫をしながら日々ご尽力をいただき、改めて感謝を申し上げます。

私がこの夏にまちづくりで嬉しかったことを 3 つ、最初に挨拶させていただく。

まず 1 つ目は、吉本興業のロンドンブーツの田村淳さん。お城まつりに来てくれた際、私も直接会ってお城の観光大使という話をした。それを快く受けてくれ、7 月に東京でお城観光大使の認定書を預けた。それにより、テレビで何回も田村淳さんが丸亀城のことを発信してくれており本当にありがたく思っている。丸亀市の観光大使は全てボランティア。もちろん田村淳さんをお願いする時も、ボランティアですと伝えたところ、快くそれで結構ですとおっしゃってくださり、無料で丸亀のことを発信していただいている。

2 つ目は、今日質問の中にも入っているが日経ビジネス総合研究所の住みやすい街ランキング。去年は丸亀市が全国 3 位、今年の夏は全国で 19 位。中四国では断トツのナンバーワンの成績であった。去年がおそらく第 1 回目なので、ウェブのアンケート調査の数が少なかったが、それにしても全国で 3 位というのは驚いた。武蔵野市や千代田区などの東京の大都会が並んでいる中に、丸亀市が地方でポツンと入っている。今年を対象者数を増やし、39 項目の調査を行ったところ全国で 19 位。東京が並んでいる中にポツンと丸亀市が入っており、今年の夏も中四国ではナンバーワンであった。

その項目の中で点数がよかったものは、気候が穏やかで自然災害が少ない。これは地の利があり、穏やかな天気です。災害もほとんどない。そして、介護サービスを受けやすい。その他は保育所幼稚園こども園などが充実していて、入りやすい。子育て関連の項目が、評価高かった。その他に、自然環境が豊か、公園が多い。町が静か。

私が嬉しかったのが、町の歴史、伝統などに関わる文化資材が豊富である、この点数が良かったこと。これは丸亀城を中心とする色々な伝統文化関係を、土器コミュニティの方々に

も色々のご尽力をいただいているのでとても嬉しく思っている。

3つ目は、グリーンディステーションにより、持続可能な観光の名目で丸亀市のうちわが世界百選の中に選ばれたこと。内容は、伝統工芸として続いていくような取り組みを丸亀市がしているということ。丸亀市が何をしているかといえば、丸亀うちわの講習を行うマイスター制度。何年か経ってうちわの技術が全部習得できたら、マイスターの認定証を渡すが、その人たちが今 35 人いる。毎年続けている伝統工芸品に対する活動が、持続可能な観光ととられており本当に嬉しかった。

うちわには力を入れており、売り上げとしては 35 億程度。伝統工芸品として行うということでうちわミュージアムを移転し、以前の倍ぐらいの方が来てくれている。昨年度はパリ博にうちわを出店し、5、6000 円のうちわをたくさん展示販売したところ、とても好評であった。うちわは電気も油も使わずに自分が仰いだけで涼しくなる。今の世界の時代に合っているということもあったと思うが、そのうちわが世界百選で選ばれことによりテレビニュースにとりあげられたことを嬉しく思った。

ここ最近ではその 3 つ、嬉しいことがあったので報告をさせていただいた。

本日は、活動制限を終えて、コミュニティの実情や苦勞されていること、日頃の活動など、地元の皆様の声を聞かせていただき、皆さんの力が生かせる丸亀市住みよい地域社会のまちづくりを今後とも一生懸命取り組んでいきたいと思っている。どうぞ今日はよろしくお願ひします。

## 会長

おはようございます。本日は平日の午前中にありがとうございます。

市長と語る会ということで、前回までは市長懇談会という名前でやっていたと思うが、この時は地域の住民の方もたくさん参加していただいて話をしている。今回は役員がメインということでこれぐらいの人数にはなっているが、自治会長に聞くと何でそうなったのかという声も多々あった。出来るのであれば、元のように市長懇談会という形で意見や質問をしたい方もたくさんいるので、役員だけでなく地域みんなの意見も吸い上げていただきたいと思っている。またご理解ありましたら、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

## 2. 第 1 部 コミュニティ活動の紹介・意見交換会

### 会長

2020 土器町まちづくり計画Ⅱについて市長は早い段階で見いただいているとは思いますが、この後にダイジェスト版を作り、コミュニティの会員に配布した。センターの方へ取りに来られる方も多々いて、結構な部数を配布はできていると思っている。冊子は厚いので、ダイジェスト版の方を家庭に配布した。

この中にある四つの柱。1 番がにぎわいと活力のあるまちづくり。2 番が心豊かな人が育ちいきがいのあるまちづくり。3 番が健康で安心して暮らせるまちづくり。4 番が自然や環境・文化を大切にするまちづくり。それぞれの中に各部があり、いろいろな行事を行って

る。

主な内容として、1のにぎわいと活力のあるまちづくりでは、3月の弥生まつり、8月のどきっ、DOKI サマーフェスタ、町民運動会。自主防災会ではブロックごとの防災訓練を行っている。

2の心豊かな人が育ちいきがいのあるまちづくりでは、子供を対象にしたハイキングや人権標語を募集して表彰するなど子供をメインにした行事が多い。

3の健康で安心して暮らせるまちづくりでは、土器っ子広場で0歳児とその家族を対象に我々が街歩きして独自で作成したハザードマップを使用した防災講座を行っている。今年は11月15日に開催予定。また、土器町独自の海拔表示は97ヶ所。コロナ禍で活動ができていなかったため、今年度から進めたいと思う。友愛訪問は、福祉部が高齢者や独居老人の方へ色々な配布をしながら安心安全の確認を行っている。長寿会では、福寿学級でいろいろなテーマの講座を行っている。保健部会では、地区の自治会の男性料理教室料を開催している。

4の自然や環境・文化を大切にすまちづくりでは、環境部は芝桜苗植え、青ノ山ふれあいの森の草刈清掃。総務部は土器川や県道の清掃を行っている。文化面は、獅子舞や祭りを開催。獅子舞は、最初は11ぐらいあったが、今は高齢化ということで七つぐらいになっている。

簡単な説明になったが、また2025に向けて進めていく状況である。前回の時は、自治会や小学校幼稚園保育所の父兄や館の利用者にアンケート調査を行い、それをもとに策定を進めてきた。本年度は質問を少し簡単にしたアンケートをまた実施したいと思う。

#### 会長

人材の確保ができていないのが課題。市の職員やOBなどに、コミュニティへ参加していただきたい。現職の土器町の職員は何人くらいいるのか。

#### 市長

かなり多い。

#### 会長

市職員の積極的な参加をお願いしたい。

今年に入って1自治会が高齢化で解散になり、また土器の自治会加入率は下がった。ワースト一位を城南と争っている段階である。市とコミュニティの担当が加入促進には回っていただいていたがここ3年間は止まり、そのあとも行けていないのが現状であり、拡幅するのが難しい状況にはなっている。

新しい団地ができると、ごみの収集積場所についての意見をコミュニティ会長や連合自治会長の名前で出す。その際に一応業者にはお願いするが、そこから伝えてくれているか分からない。コミュニティからではなく、市の方から自治会を作ってくださいと要望してもらう方が加入率が上がると思う。

アパートがものすごく増えているが、その中で大東建託には最初から無理と言われる。人口は増えるが、そこへ入ったら、自治会加入は絶対無理という感覚がある。できるのであれ

ば、市が大東建託などの業者と話をしてほしいと思っている。

#### 市長

まず、土器町は丸亀市の中で買い物、病院、学校が近く、生活が便利な地域と言われている。最初に話した住みよい街のランキングでも、それらの評価の項目があるので、そういった面では大変良い町ということ、会長の説明の中にも大体それが出ている。

自治会加入率が 37%で低いという説明であったが、住民の活動はいろいろなイベントで賑わっている。例えば、サマーフェスタに行ったことがあるが、規模が大きく花火を打ち上げるなどとても良い。また、祭りも特に活気があって土器川までの行列がすごい。

そういった面では、加入率は低いと言っても丸亀市の中では手本になるような活動をされていると考えている。また、生涯学習や福祉関係の方も活発に活動していただき、いいまちを皆様方が中心に作っていただいていることに感謝する。

挨拶の中で言われた、以前の市長懇談の形をとという希望は、市民の皆さん方のご意見を私としてもたくさん聞いていきたいと思っているので検討していきたい。

自治会を通じてコミュニティ活動には参加をするので、楽しんでやっていただくということ一番である。やりがいもあって楽しさもある、コミュニティへ行っているんな活動するのが本当に面白い、楽しいというような形が理想で必要だと考えている。

その中で丸亀市が今現在自治会加入向上に何をしているかということ、自治会加入推進委員の配置し、地域の方々と連携して加入促進や自治会の退会や解散を抑制するための相談業務に注力している。また今年度は自治会加入促進チラシを作成し、丸亀市へ転入してくる方すべてに配布をすることで自治会の加入を促している。

先ほど会長の方からもあったが、家や団地の建設が進んでいる。その時に丸亀市が中心になって入居する方々に自治会を作る推奨をしていくということは、業者に依頼することはできると思う。これもうすでにやっているのか。

#### 会長

これはコミュニティにおりてきている。ゴミ集積場の地図を持ってくるので、コミュニティか連合自治会長の名前で、自治会を作って加入してくださいという文言で業者に渡すが、その業者が実際入居する人にそれを伝えているかは分からない。不動産の管理者から市に申請があった場合には市が言っただけならばと思うが、コミュニティへ全部丸投げにしている。

#### 市長

それは不動産業者に市の方から丁寧に積極的に説明すべきということですね。

#### 会長

クリーン課のごみの設置場所についての意見。書いてくださいとくるので、近隣の自治会に加入できませんかと書くが後の処理がどうなっているかは分からない。業者の建築確認申請の際、市の方から自治会を作るか近隣の自治会への加入を促進する方がもっと効果があると思う。

## 市長

それはするよう指示をする。

## コミュニティ 1

関連で、5、6年前からそのやり方で取り組んでいるが、実際それに基づいて自治会を作った自治会は0。新たに作った自治会というのは、戸別訪問、ポスティング、説明会を行った。地道に話をしていかないと、書類だけでは効果はないと思う。

もう1点の問題は、ボランティア人口の減少。高齢化により担い手は不足し、それに関連して若年層の自治会離れがある。自治会に加入しなくても影響ないからといって、ボランティアをしようとする人が少ない。資料に書いているのは37%だが、最新は10月1日現在36.1%。コミュニティ活動も自治会も高齢化が進んでいる。

## 市長

話を聞きながら思い出したのが、私が札幌で仕事をしていたときのアパート。入居したら自治会に自動的に入会して、1番若い私が自治会長を2年間した。高松でも同じ。任意のはずではあるが、自治会には入会するという雰囲気があったので躊躇なく皆が入会していた。そういった雰囲気を行政も作っていかねばいけない。業者にも丁寧に説明して熱意を持ってやっていくようにする。

## 会長

昔は冠婚葬祭があり隣近所付き合いがあったが、今は付き合いたくない人がたくさんいて、アパートなんかは付き合いがなくても困ることはない。そういう感覚の人がものすごく増えていると思う。子どもが入りたくても仕事があって当番が出来ないという親が多く、子供会も衰退している。土器は二つ。

## 市長

私の自治会でも子供会があり、当番が回ってきたらやっていたが、今はなくなった。

## 会長

子供が減った。若い世代の人は団地が多い。

## 市長

これは全体の課題。行政がもっと丁寧に熱心に業者の方へ、説明を行う。

## コミュニティ 1

自治会に代わる何かを考える必要がある。

## 市長

東京の方では自治会ではなく、住んだら入るコミュニティみたいなものがあったと思う。そういったこともイメージしている。

## コミュニティ 2

丸亀はマンションが増えてきた。マンションで自治会を作っているところはまれ。管理組合へ色々な情報を発信出来ればいいが、繋がりが無いので出来ていない。

## 市長

さきほど話した札幌と高松では、あえてそのマンションの管理組合のようなところで自治会というふうに作っていた。

### コミュニティ 2

ただ、管理組合と自治会が混在した中ではお金の問題などが難しいと思う。しかしながら、地域との繋がりというのは管理組合ではなく自治会であると思うので、どう取り組んでいくか考えなければいけない。

## 市長

最初に話したように、土器コミュニティが行っている様々な行事は、明るく楽しく活気があるので続けていただきたい。若い人も参加しようと思い、参加するには自治会に入った方がいいと思ってくれる。

### コミュニティ 3

最近、地域内にアパートがたくさん建っているが、自治会とは交流がない。自治会に入ることによるメリット。例えば地域の人と交流できて、特に防災面で協力ができる。地域の不満などを自治会を通して要望できる。そのようなメリットを伝えてほしい。金銭面や役割を担わなくてはいけないなど、デメリットの方ばかりみんな感じている。

既存の自治会の勧誘については、例えば自治会館建設の負担金などの話をすると断られてしまう。ただ、新しく入ってくる人だけが負担しないというのは難しい。既存の自治会に入ることが難しいのであれば、新しい自治会を作る。そういうことを市の方でしっかりしてほしい。

## 市長

今の意見を担当課に共有する。業者に対する、自治会を本当に作ってもらいたいという説明とお願いについて、指示をして取り組んでいきたい。新規の団地で 0 というのはショック。引き続き、皆さん方にも協力をお願いしたいと思う。

## 3. 第 2 部 テーマ選択方式による意見交換

### コミュニティ 4

第 2 部のテーマは「地域防災力の向上」を選択した。回答をお願いする。

## 市長

地域防災計画の策定。これは、市民の生命や財産を災害から守るため、行政が防災関係機関と市民と連携し、被害の軽減対策や災害時の発生時の対応についての計画である。この地域防災計画で一番大事なことは市民に防災意識を持ってもらうことであり、防災教育にも力を入れており、自主防災組織の結成や育成相談を受けている。

具体的な内容については、自主防災組織で購入するときの備蓄品や防災の資機材など、防災減災できるようなものに関しては、経費を補助する仕組みがある。しっかりと活用をしていただきたい。その他、防災士の育成支援として、防災士の養成講座を受講して資格を取得

するときに、受講料を全額補助している。また、香川県の防災研修への参加案内を行い、町全体での防災に対するスキルアップを目指す取り組みをしている。

#### 満尾課長

研修につきましては、自主防災組織の集まりの協議会を 17 地区で作っており、自主防災組織を対象とした視察研修や講演会を行っている。参加していただくことで市と連携して地域防災力を高めていただきたい。

#### 会長

資機材などの補助は自主防災組織を作った時のみなのか。毎年何らかの補助はあるのか。

#### 満尾課長

4 年間のスパンでコミュニティ単位の補助となる。

#### 会長

コミュニティから出すのは知っているが、各自治会で防災組織を作った場合、各自治会が市の方へ申請するような補助はないということか。

#### 満尾課長

今はコミュニティ単位であるので、コミュニティを通して利用していただく形をお願いしている。

#### コミュニティ 5

以前、市で防災士の短期講座があったが、今後開催の予定はあるか。

#### 満尾課長

令和元年に短期講座を開催した。毎年開催は難しいが検討する。

#### 市長

先月も国土交通省に、土器川と大東川と金倉川の三つの川がある丸亀市は危険という話をした。住みよい街でも高得点になるほど、今まで災害が少ない。しかし、最近の異常気象は甚だしい。局所的な雨により今まで冠水することがなかった地域でも冠水している。

#### 満尾課長

丸亀市は、総合排水計画を来年の 3 月までに作っていく。市全域の排水対策について、各課は対応していたが全体的な計画はなかった。県内で初となる計画に基づいて、排水対策をしてまいりたい。

#### 市長

問題は個人的な土地。なかなか協力を得られないのが現実であるが、早急に取り組んでいきたい。

愛媛県大洲市の肱川は、普段は水があまりないような状態で土器川に似ている。その肱川が平成 30 年に決壊し、たくさんの方が亡くなった。土器川決壊も十分あり得ると思った。土器川決壊を想定して蓬莱橋の架け替えは決定しているが、時期が未定であることが問題であり、何度も陳情している。

## 会長

城東小学校の建て替えの際、防災の点で地下に貯水マスを作って欲しいと依頼したが、前例がないということで終わった。市は前例がないとばかり回答する。今の時代であるから、体育館にエアコンは導入してくれるのか。

## 市長

指示はした。

## コミュニティ 6

小学校は災害避難所にもなっている。エアコンがなければ、高齢者は大変である。

## 市長

現在、物価高騰で資材は高くなっている。

## 会長

土器川の堤防の下という立地条件も考えて、地下ピットを作ってほしい。決壊したら全て浸水する。

## 市長

まずは土器川の下流を 1.3 倍の水が流れようにする国の計画が早急に行われるようにしたい。

## 会長

西団地ができたときに広い水路を作った。そこから幼稚園を越えると既存の水路しかないので、そこで溢れてしまう。

## 市長

会長のおっしゃる通りで、南ほど水路が広く北へ来るほど水路は全部狭い。

## 会長

家がたくさん建って保水する場所がなくなっている。総合排水計画はしっかり見直してほしい。

## コミュニティ 3

関連して、城東幼稚園の前の水路について。土管が通っているので非常に狭く、道路が冠水する。ポンプさえ持ってくればすぐ排水できるよう電源を入れたことにより、多少は緩和できているが、根本的な解決にはなっていない。

もう 1 つ、古子川の氾濫を心配している。平成 16 年に古子川を越流して小学校の前が冠水した。古子川の堤防の高さと土器川の堤防の高さの差が 2 メートルくらいあり、土器川の水位が上がって古子川の堤防より高くなった時、土器川の水が古子川の方に逆流する可能性がある。そうすると門を閉めざるをえないが、その場合に古子川の水をどう排水するか。ポンプが設置されていて土器川の方に排水するとなっているが、実は 16 年の時にポンプの性能が十分発揮できなかった。容量の問題があり、またポンプの吸水口にいろいろゴミが溜まっていた。その後ポンプの性能もアップしたと聞いているが、どのような対策をしたか教えていただきたい。



## 満尾課長

古子川については県の管理河川になるので、後日回答させていただく。

## 市長

今おっしゃった通り、平成 16 年に川西町も古子川の水が流れてきて海のようになった。その後家がたくさん建って、遊水地となる田んぼもなくなってきている。一番大きいのは土器川の水を 1.3 倍流れるようにする国の計画であるが、まだ先になる。丸亀市は総合排水計画を進めていきたい。

## コミュニティ 4

次に、要配慮者に対する支援について。丸亀市とコミュニティの役割はどのように考えられているのか。コミュニティとは、どのような方法、手段により意思疎通を図ろうとしているのか。

## 市長

丸亀市は、避難支援を円滑に行うことができるように、避難行動要支援者名簿や個別避難計画の作成を行い、コミュニティ、自主防災組織、民生委員、児童委員、消防機関と警察の団体に名簿を配布している。

コミュニティや自治会では、要支援者の名簿により、災害時の避難誘導や日々の見守り活動を行っていただきたい。避難支援をする上での問題点については、随時協議をしていく。市職員だけでは対応が難しいので、コミュニティの方々にご協力いただきたい。

## コミュニティ 2

要支援者の避難支援をコミュニティが行うには、自治会加入率が 36%ではできない。

## 市長

きちんと計画は作成しているが、市もそこまで回る人数は正直いない。

## 会長

11 月 12 日、消防団員と民生委員が要支援になる方を訪問する予定。

## 市長

ありがとうございます。

## 満尾課長

避難行動要支援者の対応につきましては、名簿を作成し毎年配布させていただいている。毎年、課題やご指摘ご助言をいただいております、庁内で検討して回答して参りたい。民生委員や消防団員の方々の日頃の声掛け対応などで見守り活動ができると思っている。協力し合いながら対応を進めてまいりたいので、ご意見いただけましたらお願いします。

## 市長

11 月 5 日に丸亀役所の避難訓練を実施する。

## 所長

次に、南海トラフ地震で下水道が破損した際の市の対応について。丸亀市防災計画では、下水の対応を見つけることができなかった。避難所となっているコミュニティセンターでも簡易トイレ等の対策はしているが、どの程度の量を準備すべきなのか、指針となるものをいただきたい。

## 市長

災害発生時、丸亀市は下水道管の破損により最大1万6000人に対して下水道へ排水できなくなると予測されている。予防計画として、地震や地盤沈下等に対応した管や継ぎ手を採用し、災害時に破損しないように順次整備や補強を図るとともに、破損時の修繕を速やかに行うための協定も結んでいる。

次に、簡易トイレ等の準備について。丸亀市の備蓄としては、避難人数11000人、1人1日5回使用を想定し、被災初日に必要とされる55000回分を確保し、2日目以降は国や民間から供給を受けることとしている。各家庭でも、簡易トイレの準備をしていただければありがたい。

## 所長

センターでも備蓄はしているが、問題は使用後の処理について。どこへ持っていくのか、あるいは回収車が回ってくるのか。いつ処理ができるのかあらかじめ分かっていたら、使用済みトイレの保管スペースについて考えられる。食料よりトイレの方が急ぐ問題だと思う。

## 市長

おっしゃる通りで、本当に災害が起こった地区ではトイレに苦勞されているという話を聞いている。

## 満尾課長

廃棄物の保存場所については、まだ細かく計画したものがない。先進地を調べて検討させていただく。

## 市長

まだできていないことであったので、ご意見ありがとうございます。

## コミュニティ4

次に、建設後の避難所の利用について。城東小学校及び城東幼稚園、ともに避難所に指定されているが、建設後における土器町全体の避難所の今後の利用について、お示しいただきたい。

## 市長

土器地区の指定避難所は6ヶ所。そのうち、城東小学校と城東幼稚園については、老朽化に伴い改築工事新築工事を進めている。施設完成後も、引き続き避難所として指定する予定である。

設備につきましては、城東小学校は体育館2階を避難スペースとして使用できるように

なっており、加えて太陽光発電や蓄電池を整備している。

**会長**

コミュニティにも蓄電池がほしい。ついでにコミュニティはあるのか。

**満尾課長**

今現在ついでにコミュニティセンターはなく、今後については未定である。

**市長**

まずは小学校幼稚園に整備することになっている。

**コミュニティ 2**

小学校と幼稚園は西側にある。東側に避難所が少ないと思うが、どう考えているのか。

**満尾課長**

公共施設が指定避難所になるというのが原則になっているが、今後検討させていただきたい。

**コミュニティ 2**

例えばマンションなどの民間と契約するのはどうか。

**満尾課長**

スターボールについては津波避難ビルに指定している。

**会長**

津波の時だけであるし、狭い外階段で上へ上がるのは高齢者には無理だと思う。雨が降っていた場合はそのまま外にいななければいけない。

**満尾課長**

津波は 2 時間ほど時間があるので、その間に安全な避難所の方に逃げていただくようお願いしたい。

**所長**

避難ビルについて、コミュニティから市へお願いした場合に指定は可能か。

**満尾課長**

協議の仲介は可能。

**市長**

もう 1 つ備蓄物資について、丸亀市は備蓄計画を策定している。土器の場合、城東小学校の保管スペースが手狭であり一部を東中学校に備蓄しているが、新施設完成後には物資を東中学校から城東小学校に移動する予定となっている。

**コミュニティ 2**

以前、今の城東小学校に備蓄倉庫を作れないか聞いたところ、現状では無理との回答があった。新しい校舎には出来るということでありがたい。

**会長**

体育館の 2 階奥が備蓄倉庫。土器の場合はメインの通路が 2 階になっている。ただ、2 階の通路に行くまでに下は浸かってしまう。

## 市長

これは国と県の問題になるので、しっかり要望していく。

## 会長

1階が浸かった場合、職員室は1階にあるので職員室の電気系統は浸かってしまう

## コミュニティ3

1階には部屋を作らない案もあったが、予算の問題で難しかった。

## 市長

何をするにも予算を確保しなくてはいけない。丸亀はボートレースがコロナ特需で売り上げが伸びた。行動制限の中でスマホから投票する若い会員が増えたことが要因であるが、行動制限が解除されたことにより現在は売り上げが半分となり、コロナ前と同等になった。

もう1つ、先ほども述べたが費用の高騰。

その点を皆さまにもご理解していただきながら、工夫して予算の確保をしていきたいと思う。

## コミュニティ4

何か質問はありますか。

## コミュニティ2

防災関係の要望について。我々も頑張っているが、市内の他地区のことがわからない。川西と比較するつもりはないが、我々がやっていることは良いことなのかと思う。また、若い人にどう繋いでいくのかが大事。市としてももう少し助言支援をしていただきたい。

## 市長

川西町で私もずっと防災活動をやっているが、今コミュニティセンターに全部置いている防災備品を各自治会に分けるべきだと思っている。川西が進んでいるといっても、どこも劣ることはないと思っている。

## コミュニティ2

どのようにしていけばいいかなど、他の地区から聞けるようなことができればと思う。

## 会長

土器に防災の視察にきた方から、進んでいると言われた。

## 市長

土器は意識が高い。住民の意識がどれだけあるかということは大事で、丸亀全体では低いと思うが土器はとても高い。

## 会長

土器は山も川もあって災害の可能性が高いので、意識が高いのだと思う。

## コミュニティ3

市長と語る会の日程について。今回は役員だけということであったが、来年は若い人にも参加していただきたいので、できれば平日の夜、或いは土日の開催を検討していただきたい。

**塩田課長**

今回はコロナ禍の中で設定をしたこともあり、役員の方に絞って少数にさせていただいたが、土日夜間もご相談には乗れる形ではあった。来年度の開催については、いろいろなご意見もあるので検討してまいりたい。

**市長**

個人的にいうと働き方改革のことがあるとは思いますが、また相談していただきたい。

**会長**

やはり若い人の意見も聞きたいと思う。

**塩田課長**

今回はコミュニティの現状ということで、一番ご存知の役員の方たちのご意見をお聞きする形となったが、若い方の意見も聞けるような場も設けていきたいと考えている。

いただいた貴重なご意見は担当課に共有していく。本日はお忙しい中お集まりいただいたことを再度感謝申し上げます。